

エビ・カニ

Shrimps and Crabs of Hachijo Island

ガイドブック

伊豆諸島・八丈島の海から



加藤昌一／
奥野淳兒

*KATO Shoichi &
OKUNO Junji*

ウミシダ類と共生する。地色は黒く、頭胸甲の背面には2本、腹節には中心線上に1本、両側部に1本ずつの乳白色の縦縞がある。はさみや歩脚の先端部は乳白色。体長1.5cm程になる。八丈島以南の南日本から東南アジアにかけて分布する。色彩や生態がコマチコシオリエビによく似ているが、額角が短いことで区別できる。

■observation

最初は「ウミシダにはコマチコシオリエビがついている」と思い込んでいて勘違いしていました。固定観念は観察力を鈍らす原因の一つであることを痛感した次第。切り立った根の、上部側面亀裂に入り込んでいるウミシダ類の根元付近にペアで見られます。宿主の色に合わせるため色彩バージョンは様々です。



宿主はウミシダ類

フタスジウミシダコシオリエビ (藤田新称)

Galathea inflata Potts, 1915

Location: Nazumado

Depth: 10m

Length: 1.5cm

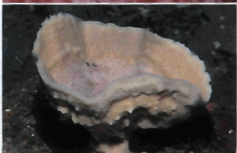
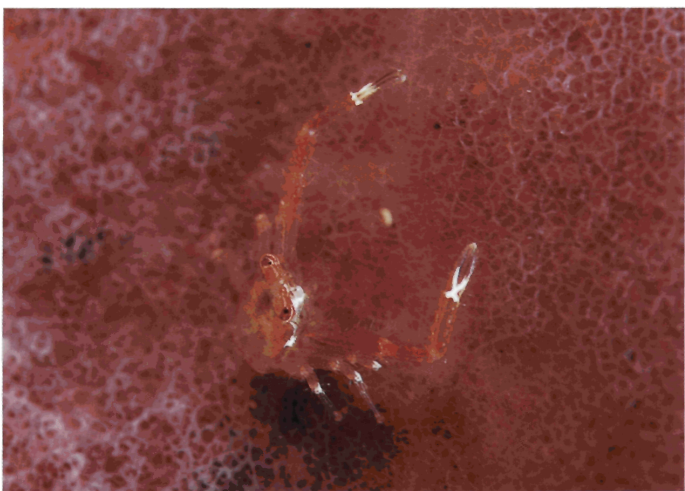
コシオリエビ科 Galatheidae

■character

体は全体的に赤味を帯びた透明で、頭胸甲や腹節には赤味の強い横溝が多数走る。目立った斑紋や縞模様はない。はさみの指のつけ根は白くなる。歩脚は透明で、中央部に白い帯がある。体長2.5cm程になる。八丈島ではカイメン類などの上が多いが、分類学的な位置づけは明らかにされておらず、今後の詳細な研究が必要。

■observation

生息場所はミズガメカイメンを中心に様々なカイメン類の間で、必ず数匹の群がりて生息しています。八丈島で定番中の定番がこのコシオリエビです。でも、名前がないんです。浅い海にすむコシオリエビの仲間、世界的に研究が進んでいないそうです。ダイバーが潜る水深では、まだまだ新しい種が見つかりそうです。



写真はワタリカイメン

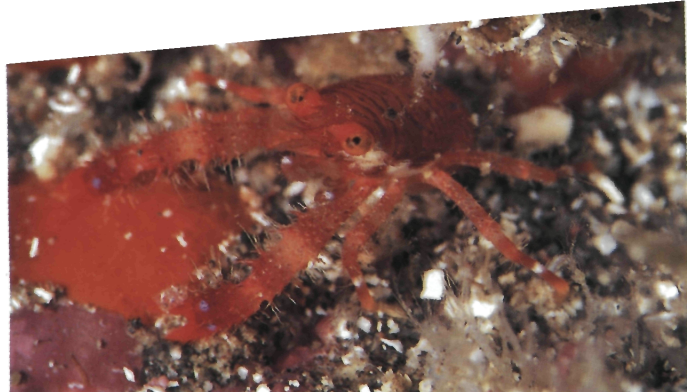
コシオリエビ属の一種

Galathea sp. A

Location: Nazumado

Depth: 15m

Length: 1cm



コシオリエビ属の一種

Galathea sp. B

Location: Nazumado

Depth: 35m

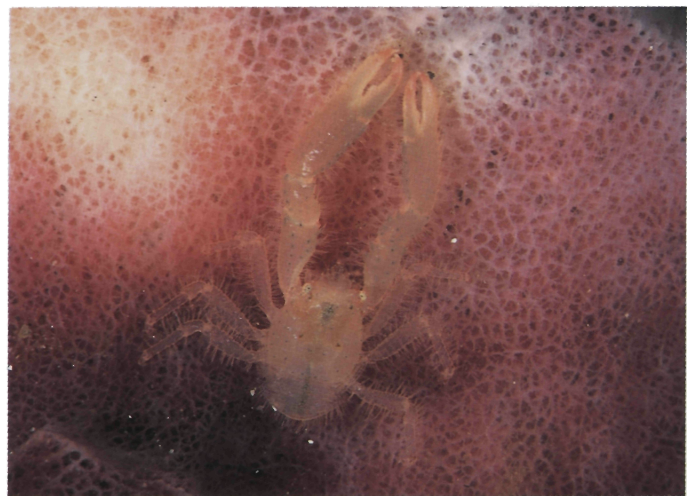
Length: 1cm

はさみには、指の
の点がある。体長
頭胸甲やはさみ脚
甲の背面に目立つ、
もつアマミコシオ
amamiensis)と酷
種にはこの紋はなし
彩はトウヨウコシオ
orientalis)と似るが
部に棘がないこと

■observation

今のところ水深30m
本種1個体のみ記録。
シオリエビと生息環
境は同じですが、本種は
深いようです。環境に
いるので、撮影すると
写体の周囲の環境の色
して、いかに素早くフ
一内に同じ色を見つけ
が勝負の分かれ目です。

Galatheidae コシオリエビ科



ヒツメコシオリエビ

Lauria gardineri (Laurie, 1926)

Location: Nazumado

Depth: 25m

Length: 1cm



写真はワタリカイメン

■character

ミズガメカイメンやワタ
リカイメンと共生する。全体
はクリーム色を帯びた透
いクリーム色を帯びた透
頭胸甲や眼柄、強大で長い
み脚に不明瞭な褐色の小点
在する。はさみ脚と、歩脚
い毛に縁取られている。歩
指節が二叉していることが
特徴。体長は2cm程。相
以南の南日本からインド・西
洋に広く分布する。

■observation

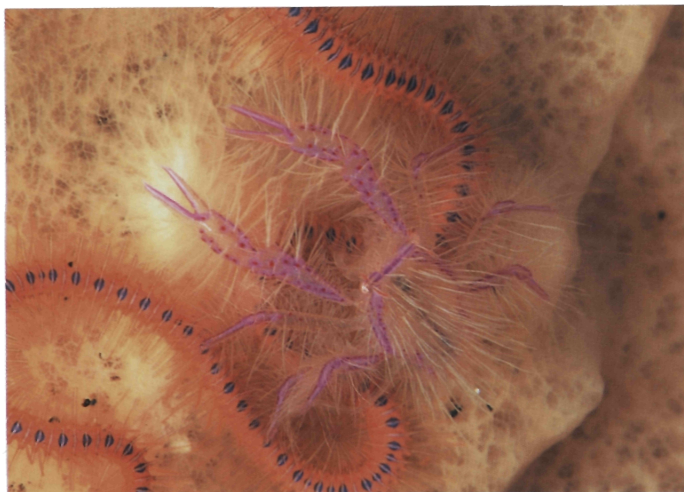
ミズガメカイメンは水深20
深の潮通しのよい岩礁域な
ず見つかります。ワタリ
カイメンはそれより深場で、斜
なっている岩礁域に点在す
うに生息しています。エビ
る場所は両種で微妙に異
ミズガメカイメンでは根元
のひだ状の隙間に隠れて
ワタリカイメンでは傘の
に隠れているようです。

■character

頭胸甲は白く、その縁や眼柄、はさみ脚、歩脚には赤紫色の点が散在している。頭胸甲の背面と脚に長く白い毛が密生する。ダイバーに人気のピンクスクワットロブスターこと*L. siagiani*によく似るが、はさみ脚が細いことや体を覆う毛が長いことから、ここでは別種として扱う。分類学的位置づけについては今後の詳細な研究が待たれる。

■observation

ミズカメカイメンやワタトリカイメンのひだの隙間や裏側に生息し、八丈島では今のところ3個体の記録しかない極めて稀な種類です。ピンクスクワットロブスターとは別種とのことですが、それはあくまで厳密な分類学上の話。フィールドを現場とするガイドとしては、「ピンクスクワットロブスターが八丈島にいる」、としておきましょう。



ヒツメコシオリエビ属の一種

Lauriea sp.

Location: Nazumado

Depth: 45m

Length: 1.5m

■character

体の地色は淡いオレンジ色から鮮赤色で、頭胸甲や腹節には白い横溝が多数ある。はさみ脚と歩脚には長い毛を備える。はさみ脚は細く、白い紋が散在している。はさみの指部が長く、赤い縦線が入る。歩脚にも白い紋と赤い縦線が入る。額角は細長い剣型。体長3cm程になる。三宅島以南の南日本からインド・西太平洋に広く分布する。

■observation

水深20m以深の潮通しのよい岩礁で、奥まった穴の亀裂棚などに生息します。やや稀な種類。亀裂棚では、単独で逆さになって両はさみ脚を前方に出して「万歳」しています。写真を撮るにはイマイチ向きが悪い。指示棒で出そうとするのですが、「万歳！万歳！」と奥のほうに姿を消してしまします。被写体としては厄介なヤツですね。

ホームラチュウコシオリエビ (新称)

Raymunida elegantissima (De Man, 1902)

Location: Nazumado

Depth: 25m

Length: 2.5cm





ミヤケコシオリエビ

Sadayoshia edwardsii (Miers, 1884)

Location: Nazumado

Depth: 20m

Length: 1cm

■character

全体的に赤褐色で、頭胸甲に淡紫色の小点が散在する。はみ脚の基部から中央部にかけては赤と白の帯が入る。はさみは白い斑紋がある。歩脚にも白の帯がある。額角は細長剣型で、その両脇に大小2対の棘が額角と平行に並ぶ。体長1cm程になる。八丈島以南の日本からインド・西太平洋に広く分布。属名と和名は日本を表する甲殻類学者、三宅貞祥士に献名されたもの。

■observation

30m以浅の転石下でやや稀。色彩鮮やかですが、フィールドでは周囲に同化してわかりにくい。体も1cm前後と小さく、見つけても素早く転石下に姿を消し、撮影には苦労させられます。和名の由来はミヤケテグリなどと同じく隣の三宅島と思っていたら、甲殻類の大先生だったとは。

COLUMN

ヤドカリ類の多様なフォルム

「ヤドカリ」といえば巻貝の貝殻を背負った姿が一般的。しかし、貝殻を背負わないヤドカリ類も数多く存在し、いわゆるヤドカリとは大きく異なった形をしている。その代表には、食材として馴染み深いトラバガニの仲間が挙げられる。

ヤドカリもエビやカニと同じく十脚甲殻類の仲間。胸部には左右5対の胸脚を持っている。巻貝を背負うヤドカリの場合、最初の1対がはさみ脚で、次の2対が歩くための歩脚である。残りの2対は貝殻を体に固定させるために用いられ、他の脚に比べて短い。普通の状態では、この脚を見ることはできない。

トラバガニの脚を数えてみると、1対のはさみ脚と3対の歩脚しかない。普通のカニと比べ、1対足りない。これは脚がないのではなく、5対目の胸脚が小さく、目立たないためだ。これはトラバガニが、大昔にヤドカリ型だった姿の名残り

とされている。また、腹部に巻き込んだ「カニのふんどし」は一般のカニではほぼまっすぐだが、トラバガニでは右にねじれている。遺伝学的研究では、トラバガニはホンヤドカリ科に最も近いことが明らかにされている。

さらに、ザリガニを小さくして押しつぶしたようなコシオリエビの仲間や、ほとんどカニと同じ姿のカニタマシの仲間も、5対目の脚が歩脚に比べて小さい。広い意味での「ヤドカリの仲間」である。

このように、ヤドカリの仲間は実に多様なフォルムをもつグループということになる。(奥野)



■character

頭胸甲とうきょうこうに比べてはさみ脚と3対の歩脚が極めて長い。全体的に赤褐色で、頭胸甲の背面には白色線が三角形を形成している。はさみ脚には黄色い縦縞があり、歩脚の中央部には黒で縁取られた白い帯が脚を一周している。幅は6cm程になる。房総半島から九州にかけての南日本沿岸に分布。深海域にすむムギワラエビ(*C. dolichopus*)と同種とされていたが、最近別種として扱われるようになった。

■observation

ウミトサカやウミカラマツ上で生活するダイバーにお馴染みの種類。八丈島では主にサビカラマツに1~2匹ついています。和名にエビとありますが、一見カニに似ていて、しかし歩脚の数でヤドカリの仲間に該当するという何ともややこしいヤツです。しかも、最近になって呼び慣れたムギワラエビという名も変わってしまいました。

オルトマンワラエビ

Chirostylus ortmanni Miyake and Baba, 1968

Location: Nazumado (both)

Depth: 15m (both)

Length: 1cm (both)



水中写真の被写体としても人気者